普及センターだより

挑戦してみませんかプランター野菜

プランターをご存知でしょうか？そうです。あの花を楽しむために良く使うプラスチックの白い容器です。
このプランターを使い「手軽に」そして「気軽に」野菜（コマツナ）を作ってみましょう。

用意する物（写真）

◆プランター
◇プランターの種類は長さ65㎝、幅22㎝、高さ18.5㎝が標準的ですが、これより高さのある深型や、菜園用の標準に比較して幅が広いものもあります。
◆用土
◇作る野菜により若干異なりますが、有機質を豊富に含んだ排水性と保水性を兼ね備えた培養土を用意します。市販されている用土で十分です。
◆肥料
◇緩効性肥料（速効性の成分と緩やかに効く成分を含む）が安心して使えますので良いでしょう。これを全層に施します。

管理のコツ

◆種まき
◇コマツナは20～25日で収穫できますので、何回かに分けて種を播くと長期間食べることができ便利です。時期は9月頃から11月が適しています。

◆間引き
◇播種してから10日くらいの本葉2枚になった時期に、3㎝間隔に間引きをして下さい。
◆水やり
◇水やりはこまめに行ないます。目安は土が乾かないようにすることです。葉物類は乾燥すると品質が悪くなります。
◆害虫防除
◇早い時期に播きますとコナガ等が発生しますので、寒冷紗やネットを張ることが必要です。これで無農薬野菜が食べられます。

健康で生活するには1日30品目の食品をバランス良く摂取することが大事だと云われています。そして野菜は毎日300ｇ以上食べる必要があります。是非、皆さんも身近に新鮮な野菜を作り、一家の健康に役立ててみて下さい。

問い合わせは、山武農業改良普及センター（0475-54-0227）へ。

歌集出版

北清水にお住まいの秋葉とくさん（82歳）が、今までの短歌をまとめ、歌集「足あと」を出版しました。

・子を頼む留守を頼むと繰り返し
　征きたる夫よついに還らず
・吾と共に働きくれしリヤカーを
　廃品置場にきょうは引きゆく

戦争未亡人として、ひたすら働いてこられた秋葉さんの短歌は、読む人の胸に深く訴えてくるものがあります。これからも短歌を詠み続けていただきたいと思います。

文芸

俳句

万緑や日差しを受けて緑増す　小林　順子
幼児の小さなバケツ蝸牛（かたつむり）　〃
万緑や由布院の街馬車は行く　福田　幸子
百歳の父の気骨や蝸牛　〃
波のごと風になびける早苗かな　今関　茂生
天下道せくな急ぐな蝸牛　〃
吟行（ぎんこう）のバス万緑を浴びて行く　若梅あやめ
転びても己が道知るかたつむり　玉虫たけし
万緑や歩を調えし月見坂　戸村　静華
でで虫や杭のぼり果て天さぐる　山口　一秋
万緑や有珠の火の山よなぐもり　〃
選者　山口　一秋

短歌

線香の煙り戴き病む友の
膝なでいますみ寺に人は友　池田　春江
ぜんまいの株に胞子を持つ葉あり
土地人はそれを雄と呼びゐつ　掛川　友代
わが膝に眠れる猫を撫でながら
拘りひとつ和みゆくなり　吉岡　信子
さざ波の煌めく海を思はせて
柿の若葉は風に揺れゐつ　八角　三枝
山吹の花咲く垣根に添ひて行き
散歩の道を少し延ばせり　宇井　ちい
トマト苗植ゑむときほひゐたりしが
予定の半ばも出来ず終はりぬ　鈴木　やす
初夏（はつなつ）の空おしあぐる強さもち
椎の若葉の金にかがよふ　渋谷　静子
蕗の束ほどけば混ざるひめじょおん
蕗の香りの染みて匂へり　押尾　輝子
畑すみに山と積み置く甘藍につぼみ
立ちきぬ黄の色みせて　秋葉　悦子
狭山より娘（こ）が送りこし小包をあければ
走りの新茶いできつ　萩原　信一
有珠山の噴煙今だ静まらず
我が家に帰れぬ人を思へり　石井　ユク
竹落葉風に散りつぐ中にたち発止と
筍打ちてゆくなり　斎藤つね子